

3 高等学校

- ◇ 宮城県岩出山高等学校における実践事例 …………… 1
- ◇ 宮城県中新田高等学校における実践事例 …………… 2

実践名：「地域協働の実践」

～政宗公まつりへの全校参加～

領域：特別活動、総合的な学習の時間（普通科 全学年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年9月14日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる** **はたす**）

岩出山地域の伝統行事である政宗公まつりへの参加を通して、地域理解を深めるとともに地域社会に貢献する。（かかわる、はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

①事前

- 係ごとの準備（牛鬼担ぎの練習、竹法螺の練習など）
- 出陣式（全校生徒参加の式、係ごとの打合せなど）
- *政宗公まつり実行委員会（教員と商工会議所の方々など）

人間関係形成・社会形成能力の育成
○コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等

②実践

- 政宗公まつりへの参加
 - ・会場準備
 - ・武者行列参加（牛鬼担ぎ、竹法螺、剣士隊、吹奏楽）
 - ・まつりの運営補助（給水、接待、清掃）
 - ・会場撤去

人間関係形成・社会形成能力の育成
自己理解・自己管理能力の育成
○自己の役割の理解、忍耐力、主体的行動等

③事後

- *政宗公まつり実行委員会（教員と商工会議所の方々など）

◎ 実践を振り返って

成果

政宗公まつりに参加し地域の方々と交流することによって、地域貢献の必要性を感じる生徒が増えてきた。また、実行委員会での話し合いを重ねることによって、教員と地域の方々の相互理解を深めることができた。教員間での話し合いからも次年度への課題が浮かび上がり、本校の更なる貢献が期待できる。

課題

地域の方々を含め、より多くの人に岩出山高校のことを知ってもらうことが重要であり、今後も地域密着型の学校として地域活動に積極的に取り組んでいく必要がある。

領域にかかわる実践事例

宮城県中新田高等学校

実践名：「加美町産業研究」

領域：総合的な学習の時間（1年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年9月～12月

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・調査・研究したものを基に、課題解決のための方策や自らの役割を考える。
(かかわる, はたす)
- ・研究発表会をとおして情報を共有する。(もとめる, かかわる)
- ・加美町の地域と産業を、フィールドワーク等をとおして調査・研究する。(もとめる)
- ・社会の現場にふれ、働くことの理解を深める。(はたす)

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1. 事前学習 9/11(木)～10/30(木)

- ・加美町産業研究の概要説明 班分け 班ごとによる産業についての研究
- ・訪問先決定 訪問先研究 質問事項の検討 グループ活動の役割分担
～体験先への生徒のアポイントと企業への質問用紙の送付～
- ・質問事項のまとめ(事前連絡) 行動予定の確認等

2. 実践

- ・農業(生産・流通), 環境, 福祉(介護・行政), 教育(幼児教育・小中一貫), 製造(食品製造・工業・酒造), 商業・観光(商店街・大型店・観光・祭・地場産業)の分野に分かれて活動する。1グループ5名程度で訪問しインタビューを行う。質問事項については事前に送付する。共通の質問事項として、「どのような人材を求めているのか?」「今の高校生に期待することは何か?」を入れる。

3. 事後学習 12/9(火)～11(木)

- ・調査内容のまとめ
- ・課題発見及び解決のための提案検討
- ・自らの役割の検討



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・事前学習に時間をかけ、産業や企業の業務内容等についての知識をもたせる。
- ・アポイントや移動計画等生徒自身で行なわせることで自主性を育む。
- ・事後指導として、学年内で発表会を開催しプレゼンテーション能力の育成と、体験内容を学年全体で分かち合う。

◎ 実践を振り返って

成果

- ① 地域や産業及び自らの将来について考えるきっかけになった。
- ② 事前及び当日の行動を、自主的に活動させることができた。
- ③ 地域の方々との体験・取材活動を通じ、ふれあう機会をもつことができた。

課題

- ① コミュニケーション力、主体性をより向上させる必要がある。
- ② 1年(加美町産業研究) 2年(職場体験学習) 3年(社会人模擬面接・進路別学習)の3年間を見通し、生徒自身の将来と今後の社会へのかかわり方について学習が深めさせられるよう調整を加えながら計画を立てる。